

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和2年度 第3回大野中地区まちづくり会議(全体会)				
事務局 (担当課)		大野中まちづくりセンター 電話042-741-6695(直通)				
開催日時		令和2年10月1日(木) 午後7時~午後8時10分				
開催場所		大野中公民館1階 大会議室				
出席者	委員	18人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	2人				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 会長あいさつ 3 議 題 (1)大野中地区まちづくりを考える懇談会について (2)グループ討議について 4 その他 (1)各団体の情報提供・情報交換について (2)今後の日程について 5 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(〃 は委員の発言、 〃 は事務局の発言)

1 開会(事務局)

2 会長あいさつ(森会長)

3 議 題

(1) 大野中地区まちづくりを考える懇談会について

会長よりコロナ禍の中、懇談会の開催について最終確認を行った。

また、事務局より懇談会の開催に向けて、「グループ討議まとめ」及び「懇談会テーマシート」などの提出資料、懇談会当日の「進行と役割」について説明するとともに最終確認を行った。

《主な意見・質疑等》

特になし

《結果》

懇談会について、11月5日(木)に予定どおり開催することとした。

また、「グループ討議まとめ」、「懇談会テーマシート」については、原案のとおり承認された。なお、懇談会当日の「進行と役割」については、次のとおり決定した。

司 会【堤副会長】

開 会【堤副会長】

まちづくり会議からの説明【大久保副会長】

主な項目

- ・『高齢化に伴う地域活動の担い手不足への対策』 _____ 【山梨委員】
- ・『こども110番の家事業に係る地域と学校との関わり』 _____ 【大谷委員】
- ・『公民館などの公共施設への防犯カメラ付き自動販売機などの設置の検討』 _____ 【新山委員】
- ・『相模原南警察署移転に伴う大野中地区の交番の充実』 _____ 【新國副会長】

閉 会【新國副会長】

(2) グループ討議について

今後のグループ討議に係るテーマの選定について、各委員の意見を伺った。

《主な意見・質疑等》

東清掃事業所跡地の活用については、要望書として2回市側へ提出しているが、内容が漠然としているため、市側も回答に苦慮すると思われる。

このようなことから、地域と市が話し合う場を設けて市の考えを伺うなど、対話をしながら検討を進める必要があると感じている。

○若竹園も老朽化しているため、今後の利活用について検討も必要になると思う。

東清掃事業所跡地は、貴重な市の財産であり地域のまちづくりに活かしてほしい。また、古淵鷓野森グラウンドやプールなど周辺に施設があるので一体的な活用を視野に入れて考えた方が良くと思う。

大野中地域の東清掃事業所跡地に加え、大沼・大野台地域の狭い道路や交通不便地域などの課題を含めて検討をした方が良くと思う。また、大野中地区内を循環するような交通手段も将来的には必要であると考えている。

《結果》

上記を踏まえ、グループ討議のテーマとして「東清掃事業所跡地」に関することとした。

4 その他

(1) 各団体の情報提供・情報交換について

事務局から各団体にイベントや取り組みについて、情報提供などをお願いした。

○大野中地区敬老事業について情報提供があった。

大野中地区敬老事業実行委員会において、80歳以上の対象者に市長と実行委員会会長からのあいさつ文、祝品（タオル）などを民生委員・児童委員の協力を得て配布する予定である。また、敬老事業の一環として、地域貢献活動に取り組んでいる高齢者などの表彰対象者に係る推薦について自治会長へ依頼をしている。

地域活性化事業交付金の活用について情報提供した。

9月に境川沿いで、体長約1m（尻尾の長さを含む）の「ミズオオトカゲ」と思われる大きいトカゲが目撃された件について情報提供した。

《主な意見・質疑等》

特になし

(2) 今後の日程について

事務局から次のとおり周知した。

大野中地区まちづくりを考える懇談会

令和2年11月5日（木）午後7時から 大野中公民館 大会議室

第4回大野中地区まちづくり会議（全体会）

令和2年12月3日（木）午後7時から 大野中公民館 大会議室

《主な意見・質疑等》

特になし

5 閉会（白倉副会長）

以上

大野中地区まちづくり会議委員名簿

（まちづくり会議委員の役職：会長、副会長）

No	推薦団体名	役職等	氏名	出欠席
1	大野中地区自治会連合会	会長	森 逸雄	出席
2	大野中地区社会福祉協議会	会長	新國 満	出席
3	大野中公民館	館長	大久保 宗俊	出席
4	大野中地区商店会	代表	田村 小次郎	出席
5	大野中地区民生委員児童委員協議会	会長	堤 道子	出席
6	大野中地区老人クラブ連合会	会長	臼倉 昭夫	出席
7	大野中地区自治会連合会	副会長	細谷 剛	出席
8	大野中地区自治会連合会	副会長	川島 光子	出席
9	大野中地区自治会連合会	副会長	大浦 一人司	出席
10	大沼公民館	館長	山梨 薫	出席
11	大野台公民館	館長	高安 祥介	出席
12	大野中地区子ども会育成連絡協議会	代表	大谷 喜一郎	欠席
13	大野中地区青少年指導委員	代表	新山 静江	出席
14	大野中地区スポーツ推進委員	代表	高田 祥次	出席
15	大野中地区小学校PTA	代表	佐藤 洋栄	出席
16	大野中地区中学校PTA	代表	岡 美樹	欠席
17	大野中地区健康づくり普及員	代表	岡田 美智子	欠席
18	大野中地区ボランティアグループ	代表	山下 巖	出席
19	大野中地区防犯協会	代表	成嶋 淳介	欠席
20	大野中地区交通安全母の会	代表	細金 昭子	出席
21	大野中地区連合自主防災隊	代表	稲毛 一利	出席
22	相模原消防団南方面隊第3分団	代表	義澤 彰	出席
23	大野中地区企業（大野台事業所協議会）	代表	中村 千恵	欠席
24	大野中地区地域包括支援センター	代表	家田 未来子	欠席

グループ討議まとめ「大野中地区の防犯について」

1.現状と課題

(1)現状

大野中地区まちづくり会議では、相模原市の次期総合計画及び都市計画マスタープランの策定に向けた地区のまちづくりについて、現況把握を行うとともに課題や対応方策についての意見交換を行い、「大野中地区まちづくり会議報告書（平成 30 年 10 月）」を作成しました。その報告書の「安全・安心」に係る分野については、大野中地区の重点分野として取り組みを検討しています。

現在、大野中地区では、身近な犯罪を抑止し、犯罪が起こりにくい環境をつくるため、「小学校を中心とした登下校時の子ども安全見守り活動」、「青色防犯パトロール」、「こども 110 番の家」、「防犯灯の設置」、「防犯カメラの設置」など、地域で防犯に係る取り組みを行っています。

(2)課題

上記のような現状を把握するとともに、次のような課題を抽出しました。

人員の高齢化や担い手不足

市内では高齢化が進み、高齢者の単身世帯が増える中、自治会加入率低下、役員の固定化や高齢化、担い手不足といった課題がさらに顕在化してくる感じています。このような中、地域でも子ども安全見守り活動や青色防犯パトロールの人員の確保に苦慮しているのが現状です。なお、青色防犯パトロールの協力員についても高齢化が進んでいると感じており、今後においては、担い手不足や事故の未然防止に係る対策が必要であると感じています。

地域の見守り体制

地域の高齢化や生活様式の多様化などにより、地域の間人間関係が薄れるとともに地域の行事に対しても無関心の傾向が強まり、地域コミュニティが希薄になることは、防犯機能の低下を招くと考えています。また、各自の防犯に対する意識は高まりつつありますが、「自分は大丈夫だろう」、「自分には関係がない」といった意識を持っている人も多いと感じています。このような中、一人ひとりが自覚するとともに地域で防犯に係る情報を共有するなど、地域の一体感や連帯感が必要であると感じています。

こども 110 番の家は、緊急時に子どもたちが駆け込む避難所として、地域で取り組みが行われています。しかし、子どもたちがこども 110 番の家のことを把握していなかったり、知らない人の家には駆け込めなかったりすると、取り組みの効果が期待できなくなります。なお、こども 110 番の家の協力員が減少傾向にあることに加え協力員と学校との連携が十分でないことなど、事業に対する地域の認識が弱くなっていると感じています。

小学校の登下校時の子どもの見守りについて、地域で実施をしているところですが、核家族化の進行や多様化する就労形態など、家庭環境が変化していること、地域の行事などで顔を合わす機会が少なくなっていることなど、大人が他人の子どもに無関心になっており、地域における子どもの見守り機能が弱まっていると感じています。

防犯環境の整備

防犯カメラについては防犯対策として有効であると考えており、地域では自治会館やふれあい広場などへ設置し、地域の安全・安心を確保するための取り組みを実施しているところですが、設置費に係る補助制度はあるものの限度額が減額となったこと、設置後の維持・更新費用の面やプライバシー保護の観点から管理が難しいことなど、地域では普及が進んでいないのが現状です。

住宅街の路地や木もれびの森付近など暗く危険な場所があり、防犯環境が十分ではありません。

安心・安全のよりどころである交番について、大野中地区には「古淵駅前交番」、「大野交番」、「大沼交番」の3ヶ所設置されていますが、世帯数が多く、面積も広い大野台地区には交番が設置されておらず、国道16号を超えた古淵駅前交番が管轄になっています。なお、古淵や大野台地区については、犯罪件数が多く防犯対策の強化が必要であることから、以前より大野台地区への交番設置を望む声があります。そればかりか、相模原南警察署が相模大野へ移転する計画があると聞いており、地域の犯罪に係る抑止力が低下するとともに、地域の防犯力が弱まることが懸念され、防犯面に対して不安を感じています。

2. 地域の課題に対する取り組み

上記の課題に係る今後の取り組みについて意見をまとめました。

(1) 地域でできること

人員の高齢化や担い手不足への対策

防犯パトロール

防犯協会では、自治会連合会と連携しながら人員を集めSNSにまつわる犯罪、特殊詐欺などを題材とした防犯講習会や青色防犯パトロール講習会を開催し、防犯活動に係る地域の担い手となる人材の確保や育成を行うとともに、青色防犯パトロールなどの各種事業を実施します。なお、青パトの運転に伴う事故を未然に防ぐための対策として、複数でパトロールを行うとともにメンバーの中に責任者として経験者を配置するなど、運転に支障をきたさないように配慮します。

地域の見守り体制の強化

あいさつ・声かけ

地域コミュニティが希薄になっている中、日頃から地域住民同士の顔が見える関係が大事であり、少なくとも隣の家の状況を把握しておくような状態をつくるなど「向こう3軒両隣」の考え方を呼びかけ、隣近所同士であいさつや声かけを心がけます。また、見慣れない人には「何か御用ですか？」など、声をかけるよう心がけ、不審者が活動しにくい地域づくりを目指します。

団体相互の連携及び情報の共有

防犯に対する共通の意識を地域に広めるなど、大野中地区がワンチームとなるような取り組みを心がけることで、地域の防犯力が高まると考えます。

例えば次のような取り組み(案)を考えました。

社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ連合会が連携し、「ポストの状況、雨戸の閉め切り、外灯のつけっぱなし」など外観から高齢者の見守りを意識してもらう。

子ども会育成連絡協議会、青少年指導委員、PTA、地域の住民や散歩を

している方などに協力を呼びかけ、小学校の登下校時の時間帯に関わらず、地域で遊んでいる子どもの見守りを意識してもらう。

防犯協会、自治会連合会、PTA、老人クラブ連合会などの地域団体相互で、空き巣、盗難、特殊詐欺などの防犯に係る情報の共有を図るとともに、地域の行事や会合で絶えず話題に出し地域ぐるみで防犯に対する意識を高める。

防犯パトロール

木もれびの森付近については街灯も少なく暗いため、青色防犯パトロールの強化を図ります。

防犯環境の整備の充実

1戸1灯

防犯灯のない住宅街の路地などについては、地域に協力を呼びかけて暗くなったら各家庭にある門灯を点けてもらい、防犯灯の代わりにします。

まちの美化

落書きや路上に散らかったごみ、不点灯の防犯灯などは、まちの清潔なイメージを損ね犯罪者が近づきやすくなるため、地域で環境美化を心がけます。

(2) 地域と行政が協働でできること

人員の高齢化や担い手不足への対策

防犯パトロール

地域では、警察署と連携を図りながら、防犯活動に係る地域の担い手となる人材の確保や育成を行っているところですが、人員の固定化や高齢化が進んでいると感じており、今後は地域活動の担い手が不足する可能性が大いにあると考えています。このような中、更なる高齢化の進行に伴う地域活動の担い手不足については、行政でも課題として把握をしていると思いますが、課題に対する行政の対策や地域支援など、今後の取り組みについて情報の共有を図りたいと考えています。また、青パトの車両について、ドライブレコーダーや踏み間違え事故を防止するための装置が装備されていれば、運転手や同乗者も安心して活動ができると考えられます。

地域の見守り体制の強化

こども110番の家

日頃から地域と学校の関係づくりが大切であるとともに、地域住民、教職員、児童、PTAなどそこに関わる人々が防犯に係る情報を共有できるような仕組みがあれば良いと考えています。例えば、行政が把握している子どもに係る事件、犯罪の発生状況や件数の情報について、広報紙や地域情報紙を活用し積極的に地域へ提供するなど地域と行政が情報を共有することで、地域で起こる身近な犯罪に対する意識の向上が図られ、地域の見守り体制の強化に繋がると考えられます。

防犯環境の整備の充実

防犯カメラの活用

地域で設置している防犯カメラに加え、地域にある自動販売機が、防犯カメラ付き自動販売機であれば犯罪抑止に効果的であると考えています。また、公共施設、公共スペースなどにも防犯カメラ付き自動販売機を設置することや市が使用する公用車へドライブレコーダーを搭載することができれば、地域防犯の役割を兼ねるとともに犯罪抑止に繋がると考えられます。例えば、地域住民の

利用機会が多い公民館などに設置してある自動販売機について、防犯カメラ付き自動販売機に変更するとともに、地域へ周知することにより地域住民の防犯に対する意識の向上が図られると考えました。他にも、市から県警本部へ要望をしている、街頭防犯カメラ等の増設など行政による防犯設備の整備も効果的な取り組みだと考えています。このように、地域と行政が連携し防犯カメラの円滑な設置を促進することができれば、さらに防犯カメラが普及し防犯体制の強化に繋がると考えられます。

防犯灯などの整備の充実

木もれびの森付近については街灯も少なく暗いため、防犯灯の設置などを地域で検討し、行政と調整しながら設置する必要があります。また、大野中地区内の緑道に設置しているオレンジ色の街路灯は水銀灯であり暗いためLED化を図るなど、計画的に交換することで、防犯効果が図られると考えています。

大野中地区の交番の充実

交番の設置について、県内全体では交番総数は増加させず、近隣交番の移転や統合などにより対応していくことになると聞いておりますが、地域の防犯に対し安全・安心を高めるためには、大野台地区への交番設置や効果的な手法（移動交番車の活用）の導入などを視野に入れながら防犯対策を進める必要があると考えています。このような中、市内の各自治会等から19箇所へ交番の新設等の要望があり、市から県警本部へ継続的な要望をしていることは承知しておりますが、交番の新設について、市の取り組み状況や考え方について情報の共有を図りたいと考えています。これらを実現するためには、地域と行政が一丸となり、安全で安心して暮らせる地域とするための取り組みが必要であります。

3.まとめ

グループ討議の中で、「大野中地区の防犯」に関する様々な意見交換を行い、地域の現状や課題を抽出し、「地域でできること」や「地域と行政が協働でできること」を視野に入れながら意見をまとめました。

このような中、防犯に関しては各団体で共有できる部分もあるため、大野中地区の様々な団体の代表が集まって組織をしているまちづくり会議をパイプ役として活用するとともに、団体相互が連携することで課題解決に向けた取り組みが図られることも期待されます。地域での取り組みにおいては、新型コロナウイルス感染拡大を防止するための「新しい生活様式」を視野に入れながら「無理のない継続可能な防犯への取り組み」が大事であることを大野中地区まちづくり会議の委員で共通認識を図るとともに、各団体へ持ち帰り情報共有しつつ防犯意識を高めていくことで、地域の防犯対策の一助になると考えています。

また、地域と行政が協働でできることがあれば、地域の団体が一丸となって行政へ提案をしていくなど、地域が一体感をもって取り組んでいく必要があります。

最後に、まちづくり会議では、地域支援のあり方や解決に向けた方策などについて、行政と意見交換や情報共有を行いながら、今後の体制づくりや課題解決の手立ての一つになるよう取り組みを進めていければと考えています。

大野中地区まちづくりを考える懇談会テーマ

地区のまちづくりに関して、地区でテーマを選定する(原則一つ)。

現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。

今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

テーマの概要・内容

概要	大野中地区の防犯について
内容	<p>大野中地区まちづくり会議では、相模原市の次期総合計画及び都市計画マスタープランの策定に向けた地区のまちづくりについて、現況把握を行うとともに課題や対応方策についての意見交換を行い、「大野中地区まちづくり会議報告書(平成30年10月)」を作成しました。その報告書の「安全・安心」に係る分野については、大野中地区の重点分野として取り組みを検討しています。</p> <p>このようなことから、「大野中地区の防犯について」をテーマとしてグループ討議を重ね、今後地域で取り組むべき課題として、「 人員の高齢化や担い手不足」、「 地域の見守り体制」、「 防犯環境の整備」の3つに分類し、「地域でできること」、「地域と行政が協働でできること」とは何かという視点で、別紙「グループ討議まとめ」を作成しました。この1年間の議論の成果をもとに、現状や課題に対し、地域支援のあり方や解決に向けた方策など、市の考えや取り組み状況を踏まえながら次の主な項目について懇談を進めたい。</p> <p>【主な項目】</p> <ul style="list-style-type: none">『高齢化に伴う地域活動の担い手不足への対策』『こども110番の家事業に係る地域と学校との関わり』『公民館などの公共施設への防犯カメラ付き自動販売機などの設置の検討』『相模原南警察署移転に伴う大野中地区の交番の充実』

上記テーマに関する地区の取組状況等

取組状況	<ul style="list-style-type: none">・現在、大野中地区では、身近な犯罪を抑止し、犯罪が起こりにくい環境をつくるため、「小学校を中心とした登下校時の子ども安全見守り活動」、「青色防犯パトロール」、「こども110番の家」、「防犯灯の設置」、「防犯カメラの設置」など、地域で防犯に係る取り組みを行っています。・大野中地区まちづくり会議では、取り組みについて現状を把握しながら、地域の課題を抽出するとともに、課題に対する地域の取り組みとして別紙「グループ討議まとめ」を作成しました。・地域での取り組みにおいては、新型コロナウイルス感染拡大を防止するための「新しい生活様式」を視野に入れながら「無理のない継続可能な防犯への取り組み」が大事であることを大野中地区まちづくり会議の委員で共通認識を図るとともに、各団体へ持ち帰り情報共有しつつ防犯意識を高めていくことで、地域の防犯対策の一助になると考えています。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------